

## 登校不安を解消するためのステップアップについて

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 2 年生の運動会までは通常どおり登校していたが、コミュニケーション能力等の課題から、運動会後の 6 月から欠席するようになった。小学校の頃から感じていた登校したくないとの自分の気持ちを初めて両親に伝えることができ、両親も当該生徒の気持ちを理解している。

### 具体的な取組

○登校不安を解消するための校内研修  
不登校生徒への支援に関する校内研修を充実させた。(生徒指導提要に基づいた寄り添う生徒指導の実施)

教員の不登校生徒への支援に関する意識の向上を図った。

関係機関との連携を強め。助言を仰ぎながら適切な生徒指導に努めた。

○登校支援会議によるアセスメントと登校に向けた支援策の確認  
毎週開催している生活指導部会内に登校支援会議を設置し、体制の充実を図った。

教育相談特別支援コーディネーターを中心に、会議において不登校になる前の働きかけや、休みが多くなった時の具体的な対応について振り返り、今後の校内別室への入室について協議を行った。

入室への促し方、入室後の対応なども確認を行った。



○校内委員会での情報共有とケース会議での具体的支援の検討

定期的で開催している校内委員会において、特別支援教育の視点から今後の対応について情報交換を行った。また、ケース会議を開催し、家庭訪問時の具体的支援の検討を行った。

校内別室に登校する生徒の出欠席が分かるようにホワイトボードを作成した。当該生徒の登校状況を全教員が把握できるようにすることで、不登校生徒に対する教員の意識向上を図った。

○校内別室の活用

個別の相談や学習支援が受けられる。また、学習の遅延も教室復帰への障害となることから、リモートによる授業も実施している。

別室において、週 3、4 日、小集団での活動を設定し、校内別室指導支援員や校内別室を利用している他の生徒との関わりをもつことで、少しずつ校内別室内での他者との交流場面が増えた。

### 成果

校内別室を利用し始め、別室の生徒や校内別室指導支援員と関わる事ができた。校内の行事にもオンラインで参加をすることができた。3 年次の 1 学期末から、校内別室に登校する日数が増え、給食を食べて午後も過ごすことができるようになった。

### 課題

教室復帰に向けた継続した支援について、当該生徒の状況に応じて取り組んでいく。

## 校内別室の活用について

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 2 年生の 1 学期半ばから欠席・早退が目立つようになった。教室にいることへの不安、授業内のグループ活動への抵抗などの訴えがあり、校内別室の利用を始めた。校内別室にほぼ毎日登校できるようになり、2 学期は教室で受けられる授業も増え、給食も教室で食べられるようになった。

### 具体的な取組

#### ○校内別室の環境整備

旧 P C 室を校内別室支援室とした。半分を学習メインの空間、半分を身体を動かせる場として活用できるようにレイアウトした。また、パーティションで個別の学習ブースを数か所設置した。



#### ○支援会議の実施

週 1 回時間割に組み込まれた不登校対策委員会（管理職・生活指導主任・不登校担当教員・養護教諭・各学年担当・不登校対応巡回教員・支援員）において、情報交換や対応の確認を行った。また、校内別室におけるシステムやルールづくりを検討し、学校全体への周知に取り組んだ。

#### ○学習支援

一人 1 台端末を活用し、教室とつなぐオンライン授業に取り組んだ。生徒に合わせた自習課題、生徒持参の課題など支援室でのスケジュールを自ら考えさせ、校内別室指導支援員も補充的な学習支援を行った。その日の記録として「生活のメモ」を記入し、保護者が確認できるようにして別室利用の共通理解を図った。

#### ○S C や外部機関との連携]

当該生徒、保護者ともに、入室時および定期的に S C との面談を行っている。教育相談室、S S W、子ども家庭支援センターとも連携を図り、担当者が定期的もしくは緊急的に家庭訪問したり保護者へ連絡を取ったりした。情報共有をこまめに行い、外部機関と教員が共通認識をもって対応できるよう心がけた。

### 成果

別室に常時在室の教員、支援員がいることで、いつでも利用できるという生徒の安心感につながっている。登校しぶりとなった生徒への早期対応ができ 2 名は教室復帰、昨年不登校の 2 人は週に数時間利用しながら教室への登校を継続している。

### 課題

学習支援、身体活動支援や体験学習の充実を図り、別室登校の継続が難しい生徒への有効的な働きかけを検討していく。

## 校内別室指導支援員の支援について

### 不登校児童の状況

対象児童は、小学校入学時は通常どおり登校していたが、6月頃から欠席が多くなった。登校する際には、保護者が付き添い、教室の後ろで様子を見ていることもあった。1年生後半から教育支援センターの訪問型支援を活用し、2年生から校内別室で指導を受けている。

### 具体的な取組

#### ○保護者の付き添い

登校時に、保護者が付き添って登校し、教室の後ろで様子を見てもらうことで安心して教室にいらることができた。

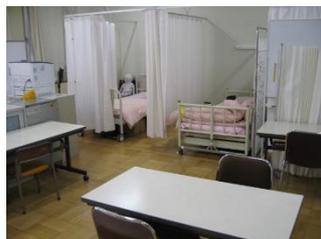
#### ○教室での支援

担任の声かけにより、同じ学級の友達と一緒に給食を食べたり、清掃活動を行ったりしている。



#### ○教育支援センターの訪問型支援、保健室の活用

教育支援センターの職員、養護教諭等と連携して、当該児童にとって居心地の良い場所の一つとなっている。



#### ○校内別室指導支援員の活用

週1日来校する支援員の下で、ドリル学習を行ったり、タブレット端末を使ってタイピングの練習をしたりしている。



### 成果

当該児童にとって、校内に、教室以外にも自身の居場所があることは安心感につながっている。このことから、週2、3日程度、定期的に登校できるようになった。

### 課題

今後も、家庭、学校、各支援員等、関係機関等と連携して、児童に居場所を提供していく。

## 校内別室指導支援員などの人材を活用した不登校支援について

### 不登校児童の状況

対象児童は、就学前から集団での活動ができず、一対一での対応をしていた。入学後は、教室で学習できるが、45分間座って授業を受けることは難しかった。体調不良による欠席が続いた後、登校しづりがあった。児童の玄関まで保護者が連れてきても、教室には入れず、帰宅することが続いた。

### 具体的な取組

#### ○居場所となる場所の設置

登校後の児童の様子や学校での活動内容などによって、適した居場所を選べるように次の場所を確保した。

- ・ 3階学習室・2階特別支援教室
- ・ 3階資料室・1階教育相談室

また、それぞれの場所では、校内別室指導支援員や家庭と子供の支援員、SC等による支援をしている。

#### ○個別支援のポイント

特別支援教育の観点から支援が必要な児童については、特別支援教室担当や知的固定学級の担任からのアドバイスを受けた。

#### ○情報共有の工夫

- ・ 生活指導夕会（週1回）での報告
- ・ SCの面談記録の共有
- ・ 校内別室指導支援員による気付きと共有

#### ○校内別室指導支援員によるデジタル機器を活用した支援

別室での授業の視聴や人の目を気にせず取り組めるよう、次の取組や補習の機会への支援をしている。

- ・ タブレット端末でのオンライン授業
- ・ プログラミング教材での学習
- ・ AIドリルパークでの学習

#### ○対人、集団への不安軽減

- ・ 発達支援センターとの情報共有
- ・ 給食時のみの登校
- ・ 限られた児童や職員との関わりにより、ストレスの軽減
- ・ 学校行事等への参加



### 成果

不登校支援委員会を通して、校内別室指導支援員、エデュケーションアシスタント、家庭と子供の支援員、SCなどの人材を活用し、様々な児童に寄り添った支援ができ、欠席が減少した。支援方法の検証・改善を行い、速やかな関係機関との連携も行えた。

### 課題

家庭との連携が図りにくい場合も、保護者とのつながりを大切にし、児童の学びにつながるより良い提案を重ねていく。

## 校内別室指導支援員の活用について

### 不登校児童の状況

対象児童は、小学校5年生であり、特別支援学級に転入してきた。4年生まで在籍していた前籍校では、教室で活動することが難しかった。現在登校しているが、教科・学習内容によっては活動に参加することが難しいため、別室で担任が設定した学習内容に取り組むこともある。

### 具体的な取組

○校内別室指導支援員による当該児童の現状の把握

当該児童は、集団での活動が難しく、不登校となる可能性があることも考えられたため、担任、特別支援教育コーディネーター、管理職とともに、当該児童の状況を確認した。

○校内別室指導支援員と当該児童の面談

担任、校内別室指導支援員、当該児童で面談を行い、別室利用上の決まり、取り組むべきことについて確認をした。

○校内別室指導支援員と活動内容についての打ち合わせ

担任は、別室指導の際にどのようなことに取り組むかについて、事前に校内別室指導支援員と打ち合わせをしている。

また、スクールカウンセラーとの連携も図っている。

○指導の実際

当該児童は、学習に取り組むだけでなく、校内別室指導支援員に自身の悩んでいることについても話すようになってきた。

心を開ける人が増えたことで、学校生活も安定してきた。



### 成果

当該児童は、校内別室指導支援員と関係を構築できたため、落ち着いて課題に取り組めることが増えてきた。

### 課題

当該児童が校内で落ち着いて過ごせる居場所を増やしていく。